



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2021.11.25 号

夏見台幼稚園・保育園でのこ
わりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。
※配信停止の方はメールでどうぞ(info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

文字がなかなか…という悩み

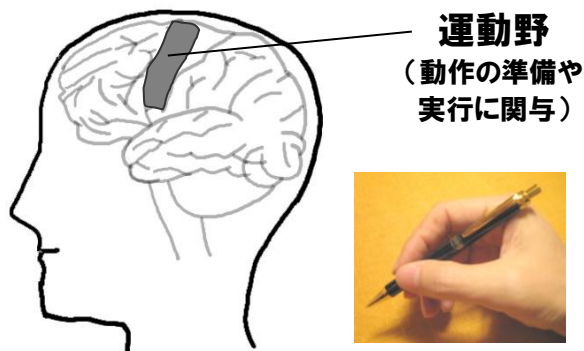
「文字がなかなか書けなくて」という悩みは
大変多いものです。特に小学校入学が近くな
ると、切実に訴えてくるお母さんもいます。小学
校に入って苦労しないように…という親心なの
でしょう。

ですが、文字が書けるようになる前に注意す
べきことがあります。

- ★「文字が書けない」は「手が動かない」？
- ★ まず「聞くこと」「音を発すること」を確実に
- ★ 文字(単語)よりも文章力(文法)が大事？

1.「文字が書けない」は「手が動かない」？

まず「手の動き」について。文字を書くには、
そのために必要な手・指の運動が大切。手の動
きは、脳の「運動野(や)」が制御しています。
運動野の発達は、早くても「5歳」といわれ
ています。



どれだけ話すことが得意でも、どれだけ絵本

を読んでも、4歳までに、文字を書くために必
要な技能を身につけることは難しいのです(参
考文献『脳の学習力』S.J ブレイクモア他著、
岩波書店)。

手や指の動きの調節には、大きな個人差があ
ります。男子よりも女子の方が早い、という報
告もあります。

子どもが早く文字が書けないからといって嘆
く前に、「手先・指先の動きは十分だろうか？」
という視点を忘れずに。大切なことは、子ども
の発達段階に合わせた、適当な遊びです。

2.「遊びは学び」だが気をつけないと…

遊びといってもあなどれません。よく「遊び
は学び」といわれますがまさにそうなのです。
特に乳幼児期の遊びにはすべて意味があります。
教育効果が期待できます。

文字を書くためには、たとえば「線描き遊び」
や動物の絵をなぞってみることなど、指先のト
レーニングを積んでおくことが必要です。

しかしここで重要なことがあります。それは

「遊びを教育にしない！」

ということです。たとえば私たちの園では、さ
まざまな遊びの環境を整えています。しかしそ
の遊びの「おまけ」として獲得される指先の熟
達を前面に押し出すとどうなるか。肝心の、子
どもたち自身の、

「楽しい！うれしい！やってみたい！」

という主体性・意欲・探究心が十分育ちません。
ここが難しいところです。

「遊び」の意義の1つは、その「没入性」に
あります。前後の時間を忘れて、自分を遊びの
中に埋没させるその集中力。

楽しいからついついやってしまう！反復もい
とわない心地よさ。だから、必要な動きを繰
返すことで、手先の緻密さ、筋肉が鍛えられま
す。強制や訓練ではないから、ストレスもあり

ません。集団遊びなら、さまざまなコミュニケーション能力も身に付きます。

発達段階に合わせた育ちのために、子どもたちが自分自身を没入できる環境を整えること。夏見台のこだわりはここに 있습니다。

3. 「聞くこと」「音を発すること」を確実に

「書きことば」(文字)と「話しことば」は根本的に違います。例えば「りんご」。子どもなら、「りんご」という1つのことばの単位として認識しています。しかし文字に直せば「り」「ん」「ご」という3つの文字で構成されます。

- ・「話しことば」としての「りんご」
- ・「り」「ん」「ご」という文字
- ・「本物のりんご」



は別々なものが「同じなんだ」と認識する必要があります。「り」「ん」「ご」と1つ1つ音を分けることを「音節分解」といいます。

例えば、じゃんけん遊びのチョキは「チ」「ヨ」「コ」「レ」「ー」「ト」というように1文字ずつ発音したと思います。知らないうちに遊びの中でこの「音節分解」をしていたのですね。すると書きことばへの移行がスムーズになります。

以上整理しますと「書きことば」をマスターするには、次のステップを踏まなければなりません。

- 「自分の口でことばを表現できること」(話しことば)
- 「1つ1つの記号を「音」として認識できること」(文字)
- 「ことばや文章(文法)を認識できること」(書きことば)

4. 文字(単語)よりも文章力(文法)が大事

ある小学校の先生から聞いた話です。

「お母さんが一生懸命文字を教え込んでいたある子ども。1年生のときはスラスラと文字を読んだり書いたりできましたが、作文を書かせ

ると、途端に書けなくなって…」。

もちろんこれがすべてのケースに当てはまるわけではありませんが、「文字指導」とは、「では『あ』を書きましょう。ハイ、書けた!」という単純なものではありません。作文は、

自分の頭で「考える」作業

です。手順を踏んだ思考、論理的思考力が求められます。さらに作文となると「文法」の問題が出てきます。ことばの組み合わせです。

実は次のようなことがわかっています。

単語の習得についての「敏感期」はないが、文法の学習については「敏感期」がある

「敏感期」とは、脳が外部からの刺激を受けやすい時期のことです。この時期にある刺激を受けないと、特定の感覚や機能の発達に影響があるといわれます。

つまり、新しい単語を獲得する能力は一生続くのですが、文法(文章としてのつながり)は小さい頃から意識しておいた方がいいのです。

5. ではどうすればいいのか?

園では、「ことば集め」(「あ」のつくものは何?)などから始まります。その他「しりとり遊び」「なぞなぞ遊び」、形容詞の幅を広げる「表現遊び」等。

最終的には「自分の思ったことが、相手にわかるようにお話しができるようになる」「相手の言っていることがわかるようになる」ことが目標です。

そうして「話しことば」の力を十分身に付けてから「文字」に移ります。また「詩の暗誦」も大事です。

美しい日本語のリズムとテンポと表現を耳から覚えます。絵本の読み聞かせや素話もいいですね。同時に「線描き遊び」などが「指先の器用さ」につながります。

最終的には文字を書いていきます。「お手紙ごっこ」も楽しめるといいですね。

(終)